

簡易懸濁法によるお薬の調製方法

約55℃の温湯を
準備します

方法1
ポットの熱湯と水道水を
2対1 で混ぜる

方法2
ミルク設定（60℃）がある
湯沸しポットの温湯



①簡易懸濁ボトルと1
回分のお薬を準備し
ます



②簡易懸濁ボトルに1回
分のお薬を入れます



特に説明のない場合
には1回分の全てのお
薬を入れます



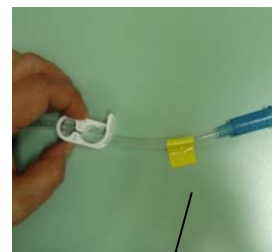
③約55℃の温湯
を容器に約20ml
入れます



10回程度
振り混ぜ
ます



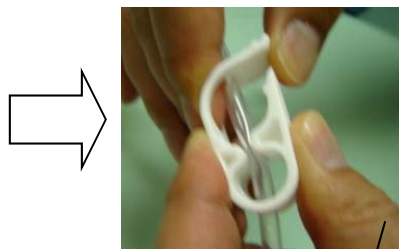
④約10分放置し
て体温以下に冷
まします。



経管チューブ
が閉じている
ことを確認

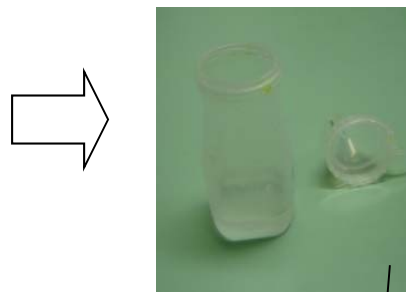


⑤再度振り混ぜて懸濁状態
（塊りなどがないか）を確
認して経管チューブに接続
します。



経管チューブを流れる状態にします。

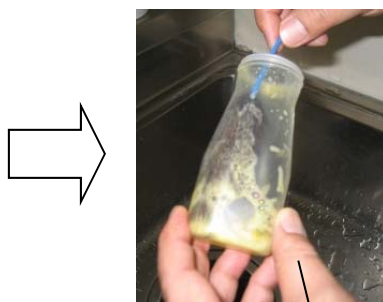
⑥軽く振り混ぜながら簡易懸濁ボトルを絞って、薬液を経管チューブに流し込みます。



⑦一度簡易懸濁ボトルを経管チューブから外して、残りの温湯を約30mlを入れます。



残りの温湯で懸濁ボトルやチューブに残ったお薬を洗い流します。



⑧懸濁に用いた簡易懸濁ボトルを洗浄してください。



洗浄後は食器乾燥機などで簡易懸濁ボトルを乾燥させてください

簡易懸濁法でお困りの際は、
名張市立病院の薬局へ御相談ください。